

2nd Girls U16 Asia Cup

日 付	2013年10月4日 17:00~18:00		
場 所	Queen Sirikit / タイ	天 候	曇り 気温33度
試 合	第3戦	通算結果	日本 2勝1敗

Country	RESULT	Country
日本	FINAL 2 - 12	中国
	1st 0 - 4	
Japan	2nd 1 - 3	China
	3rd 1 - 5	

Start	No.	Name	Card	Start	No.	Name	Card
✓	1	田中 秋桜 (GK)		✓	10	Zhang,Jinrong	
✓	3	吉原 紗羅 (C)		4	14	Zhang,Xindan	
✓	4	佐守 愛華		✓	12	Tu,Yidan	
2	5	上嶋 明莉		✓	4	Zhang,Lijia	
7	6	鈴木 美結		10	5	Shen,Yang	
4	7	吉川 光		✓	1	Liu,Kailin	
6	8	遠藤千香子		✓	16	Chen,Yang	
5	9	山根麻衣子		9	9	Zhong,Jaiqi	
✓	12	松 郁美		11	19	Cui,Luyao	
✓	13	高島 瑠唯		24	20	Zhu,Liyu	

TEAM MANAGER	山内 光春	TEAM MANAGER	Liu,Yuxiang
Coach	酒井 友真	Coach	Guo,Xudong
UMPIRE	Toh Li Min (SIN)	UMPIRE	Norasyikin Md Shariudin (MAS)
JUDGE	Kulphatu S. (THA)	JUDGE	Jeyadhevi Subramaniam (MAS)

Country	Min	Name	Action	Score	Country	Min	Name	Action	Score
CHN	1	Zhang,Lijia	FG	0-1	CHN	27	田中 秋桜 (GK)	OG	1-8
CHN	2	Zhang,Jinrong	FG	0-2	CHN	29	Tu,Yidan	FG	1-9
CHN	3	Zhang,Lijia	FG	0-3	CHN	32	Zhang,Jinrong	FG	1-10
CHN	9	Zhang,Lijia	FG	0-4	CHN	34	Chen,Yang	FG	1-11
CHN	18	Zhang,Jinrong	FG	0-5	JPN	34	吉川 光	FG	2-11
CHN	23	Chen,Yang	FG	0-6	CHN	35	Cui,Luyao	FG	2-12
JPN	23	松 郁美	FG	1-6					
CHN	24	Chen,Yang	FG	1-7					

第2回U16女子アジアカップ第3戦は、南京ユースオリンピック開催国中国との対戦である。

中国は年齢制限ぎりぎりの16歳で構成しているナショナルチームである。選手は国際ゲーム経験キャップ数6を持ち、他チームとは異次元のチームである。体格や身体能力も秀でており、ストローク、レシーブ、ドリブル等の個人技も男子並みのスピード、実力である。大会前のテストマッチで日本は手も足も出ない屈辱的な負けを経験している。作戦的には僅差のゲームができるようにインプレーの時間を短くさせ、エースの10番 Zhang,Jinrong には2人がかりでボールを奪うようにミーティングで確認した。

(第1ピリオド)

中国のセンターパスで試合が始まった。予想通り高い個人技で日本のDFを翻弄し、開始1分、ハーフライン近くから強烈なヒットシュートを打ち、ゴールへ吸い込まれた。反撃を試みる日本のバスをインターセプトされ、2分にも追加点を奪われる。さらに、ドリブルで持ち上がるように日本のボールをインターフェアの強い当たりで奪うとそのままリバースシュート、これも決まり0-3とされる。落ち着きを取り戻したい日本はスクープを多用しながら相手陣地に攻め込むが決定的なシーンは生まれない。9分にはセンターライン付近からGKの反応できない強烈なリバースシュートでさらに追加点を許し、0-4で第1ピリオドを終えた。

(第2ピリオド)

苦戦スタートの日本は、ハーフタイムにもう一度戦術の確認をしピッチに送り出した。15分にFW遠藤が中国GKと1対1になるが相手GKの好セーブにより得点には至らない。17分には中国チームエースの10番 Zhang,Jinrong に3人がかわされ、最後は冷静にGK田中の足下を狙われ失点、0-5となる。さらに、中国は早いパス回しとドリブルでDFを消し数的優位を作り、最後はGKもかわされて6点目を献上した。日本もDF吉原、山根を中心に守りが良くなり硬直状態が続いた。そんな中、23分、日本チーム最多得点を記録している松が、ドリブルで相手をかかわしてリバースシュートを決め、待望の得点を奪う。この得点は今大会中国チームが初めて奪われた失点である。1-6となった日本はさらに、攻撃を仕掛けるが、逆にインターセプトからロングシュートを打たれ、一旦はGK田中がセーブするもリバウンドを決められ、1-7で第2ピリオドを終了した。

(第3ピリオド)

これ以上、失点したくない日本であったが、26分、不運にもGK田中のクリアボールがゴールラインを割り、痛恨のオウンゴールで8点目を献上した。直後の27分、動揺の隠せないGK田中はボール処理にもたつき、ゴールラインを割って9点目を献上した。攻めの姿勢を崩さない日本はFW佐守がセンターライン付近からドリブルでしかけ、GKと1対1になるが、好セーブに阻まれる。すると、28分、29分にも中国に得点を許し、1-11とリードを広げられる。日本も負けじと反撃を試みる。31分吉川がドリブルから左へ切り込み、リバースシュート。これが決まり日本も2点目をゲットした。しかし、自力に勝る中国は終了間際に得点し、2-12の大差で試合が終了した。負けはしたが、今まで無失点だった中国に、2得点したことは次につながる得点である。ファイナル出場をかけて10月5日日本時間17:00からマレーシアと戦う。

文責：U16監督 山内光春